

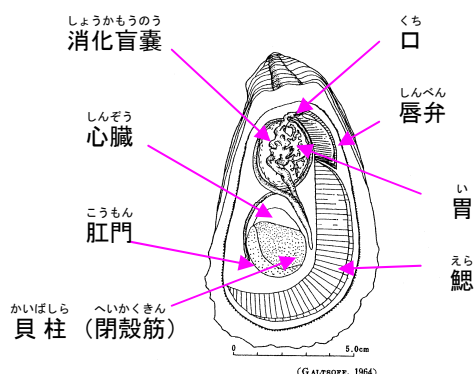
ひろしまわんの かきを取り巻く生態系

1 かきの生態

かきは、天然では潮間帯（満潮と干潮の間）に生息しています。海水から干上がった状態でも、殻を閉じて耐えられる非常に強い生物です。

かきには他の生物と同じように口、消化管、肛門があります。また呼吸をしたり、餌を口まで運ぶための大きな鰓を持っています。鰓の表面には、非常に小さな繊毛が生えており、繊毛の運動によって海水を取り込み、植物プランクトンなどを口まで運んで食べています。植物プランクトンのうち、かきにとっての最高のごちそうは珪藻類です。

マガキの生態（体の構造）



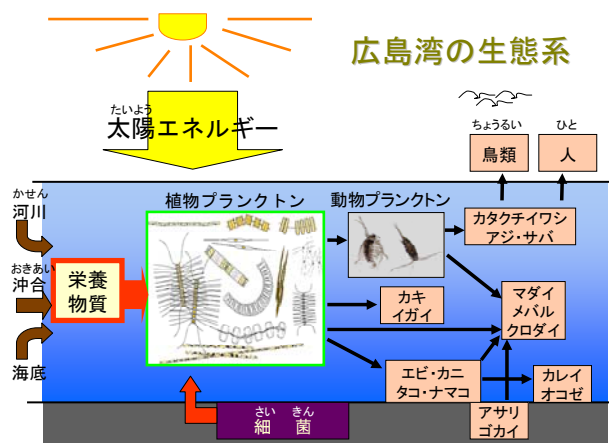
2 かきを取りまく生態系

海の生態系のスタートは植物プランクトンです。植物プランクトンが増えるためには光と栄養物質（海水に溶けた窒素、リン、珪素、鉄など微量元素）、二酸化炭素、水が必要で、温度などの条件が整えば急速に増えます。植物プランクトンを動物プランクトンなどが食べ、それを魚、貝、エビ、タコ、ナマコなどの大型動物が順々に食べていきます（食物連鎖）。最終的には鳥や人に食べられ、海の生態系の外に出ていくものもあります。生物の死骸や糞などは細菌などによって分解され栄養物質になり、再び植物プランクトンに利用されるという自然のサイクルになっています。

かき養殖では餌を与えないため、養殖されているかきの成長は、海の生態系に100パーセント依存しています。つまり、広島湾の生態系がバランスよく健全に保たれた状態でないと広島かきの養殖はできません。

生態系のバランスが崩れる一つの例として赤潮があげられます。赤潮は、海に流れ込む栄養物質が多すぎるなどの原因で、ある種の植物プランクトンが大増殖を起こし、海が赤色や茶色に濁る現象です。赤潮のなかには、魚やかきなどを殺してしまう種類のプランクトンが増える場合もあり、しばしば水産業に大きな損害を与えることがあります。また赤潮を起こした大量の植物プランクトンが死んで海底にたまり、細菌類の分解が追いつかなくなり、海底近くの海水に酸素がなくなります。こうなるとカレイやカニ、エビなど海底をすみかにする生物はすむことができなくなります。

広島湾は、生産量全国一のかきをはじめとして多種多様な生物が住み、私たちに海の幸を与えてくれるとても豊かな海です。広島湾の生態系を健全な状態に保つことができれば、豊かな海の幸をこれからも与え続けてくれるでしょう。これには、広島湾の周囲にすむ私たちが、身近な海の自然や生物に親しみ、関心を持つことが大切です。



詳しくは
コチラ→

ひろしまわんさいせい
広島湾再生プロジェクトホームページ：<http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/hirosimawanan/>
瀬戸内海環境情報センターホームページ：<http://seto-eicweb.pa.cgr.mlit.go.jp/>



ひろしまわんさいせい
広島湾再生プロジェクト 海域対策分科会ワーキンググループ
ひろしまし ひろしまけん こくどうつうしょう ちゅうごくちほうせいびきょく こうわんくうこうぶ
(広島市・広島県・国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部)

とあ じむきょく こくどうつうしょう ちゅうごくちほうせいびきょく こうわんくうこうぶ
お問い合わせ 事務局：国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部 TEL:082-511-3908